



SIOS Report

Vol.28

2020年12月期上半期

2020年1月1日 ▶
2020年6月30日

📌 トップメッセージ

皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素より別格のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2020年12月期上半期(2020年1月1日~2020年6月30日)の「SIOS Report

Vol.28」を皆さまにお届けし、当上半期の業績のご報告とともに、今後の見通し等につきましてご説明申し上げます。



代表取締役社長 **喜多 伸夫**

Q

2020年12月期上半期の業績について お聞かせください。

オープンシステム基盤事業では、自社主力商品の「LifeKeeper」は堅調な増収、Red Hat, Inc.およびOSS関連商品、OSSサポートサービスは順調な増収でした。利益面ではLifeKeeperの機能強化にかかる研究開発費、新規事業関連費用が増加したため、減益でした。

アプリケーション事業では、MFP向けソフトウェア製品はサブスクリプション販売への移行が進んだことで減収でした。一方、システム開発・構築支援は文教向けを中心に好調な増収、また金融機関向け経営

◆トップメッセージ

支援システム販売も順調な増収となりました。利益面は、金融機関向けシステム開発・構築支援において外注費等の抑制により粗利率が改善するなどし、増益でした。

これらの結果、上半期として過去最高の売上高を達成しました。営業利益と経常利益はそれぞれ増益、減益となり、前年同期における親会社株主に帰属する四半期純損失は、利益に転じました。また、経営指標として重視するEBITDA、およびROIC（年率換算数値）は上半期それぞれ101百万円（前年同期比22.3%増）、3.5%（前年同期は2.4%）となりました。

タルトランスフォーメーション（DX）への投資が加速しつつあります。当社グループはCOVID-19拡大以前から、高付加価値の製品・サービスを提供し、お客様のDX推進のサポートに注力してまいりました。サイオスグループでも全従業員の安全確保などのために実施したりリモートワーク体制を恒久化し、事業の選択と集中による経営基盤の強化、2020年4月以降の組織刷新、そして2020年10月1日に予定する国内の主要子会社3社の合併による人的資源・知的財産・資金等の経営資源の集中などの変革を推し進め、より一層の業務運営の効率化と、生産性および経営の機動力の向上を図ってまいります。

Q 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響についてお聞かせください。

COVID-19の拡大で社会経済環境は一変し、企業の新規投資意欲の減退やプロジェクトの延期が見られます。ただ、当社グループを取り巻く事業環境においては、リモートワーク環境の整備、クラウド環境への移行、業務プロセスの効率化や自動化への取り組みなどデジ

Q 2020年12月期下半期の見通しについて教えてください。

2020年2月5日に公表した「2019年12月期 決算短信」に記載の通りで変更しておりません。しかし、今後COVID-19拡大による影響が長期化した場合、当社グループの業績にも影響を与える可能性があります。

■財務ハイライト

(百万円)	2019年 12月期 上半期	2020年 12月期 上半期	前年同期比 増減率
売上高	6,914	7,276	+5.2%
売上総利益	2,124	2,178	+2.5%
営業利益	38	54	+42.0%
経常利益	70	57	△17.9%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△20	19	—
EBITDA	82	101	+22.3%
ROIC	2.4%	3.5%	—

※EBITDA…営業利益+減価償却費+のれん償却額
※ROIC…税引後営業利益÷（株主資本+有利子負債）

Q 株主、投資家の皆さまへのメッセージをお願いします。

現時点での業績予想を前提に、グループ会社からの配当と純利益により、1株当たり5円の通期配当を予定しています。

安定したキャッシュ・フローの創出に努め、人材、研究開発、イノベーションを生み出す企業カルチャーなどのミッション実現に向けた投資と戦略的なM&A、資本業務提携等を推進し、事業基盤と財務基盤のさらなる強化、積極的な株主還元を目指してまいります。これからも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

セグメント別の業績

オープンシステム基盤事業

売上高

4,183百万円

(前年同期比 7.5%増 ▲)

- 事業継続ソリューションは、主力自社製品「LifeKeeper」の国内向け販売が順調に推移したこと等により**堅調な増収**
- Red Hat, Inc.関連商品、OSS関連商品、OSSサポートサービスは**順調な増収**

セグメント利益

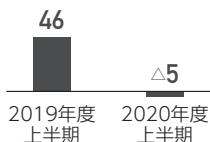
△5百万円

(前年同期は46百万円の利益)

- 「LifeKeeper」の機能強化にかかる研究開発費、新規事業関連費用が増加したこと等により**減益**



(百万円)



アプリケーション事業

売上高

3,092百万円

(前年同期比 2.4%増 ▲)

- システム開発・構築支援は、教育機関など文教向けを中心に**好調な増収**
- 主力自社製品のMFP向けソフトウェア製品はサブスクリプション販売への移行が進んだことにより**減収**

セグメント利益

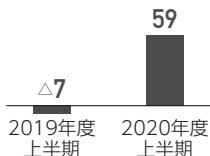
59百万円

(前年同期は7百万円の損失)

- 金融機関向け経営支援システム販売および文教向けシステム開発・構築支援は**増益**
- 金融機関向けシステム開発・構築支援において、外注費等の抑制により粗利率が改善したこと、前期に発生していた不採算案件の影響がなくなったことにより**増益**



(百万円)



基本方針と経営指標

会社経営の基本方針

当社グループは、「世界中の人々のために、不可能を可能に。」をミッションと定め、イノベーションによって人々の課題を解決し、より良い社会の実現に貢献することを経営の基本方針としています。

目標とする経営指標

当社グループは、継続的なキャッシュ・フローの創出のため、EBITDA及びROICを経営指標としています。キャッシュ・フローは、当社グループ成長のための源泉(Driving Force)である「人材」「研究開発」「イノベーションを生み出す企業カルチャー」への投資、及び株主・ステークホルダーへの還元の出発点とし、これらの活動を通じて経営の基本方針の実現を目指します。

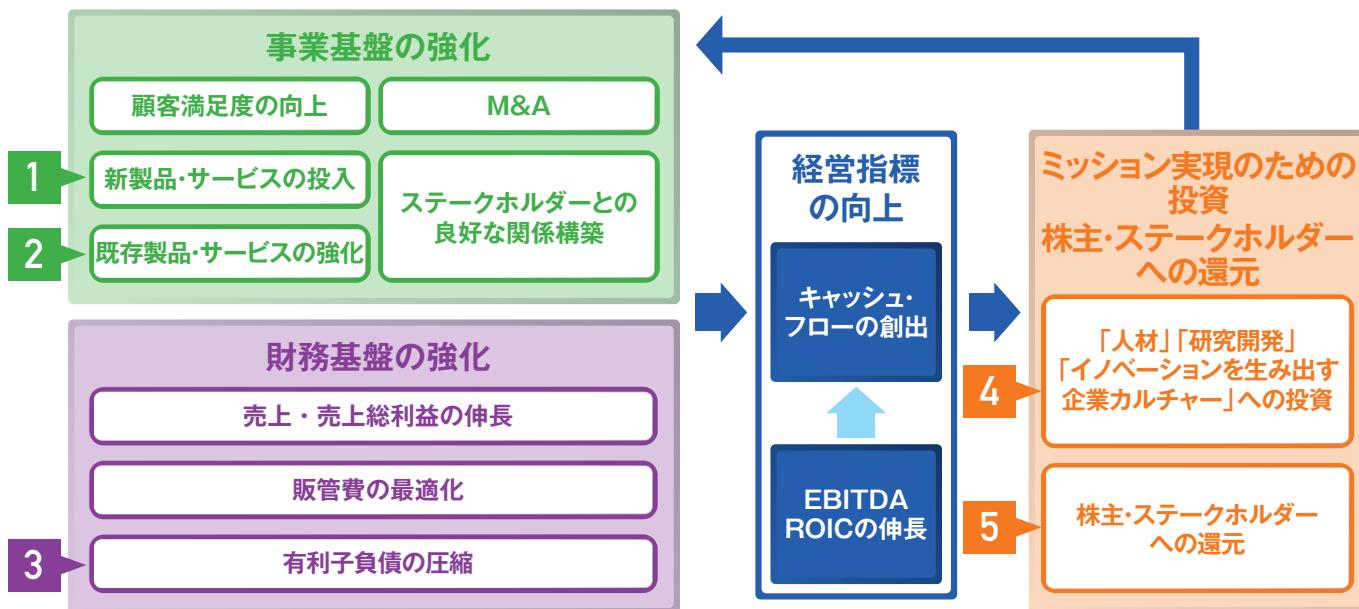
連結子会社間の合併

- サイオテクノロジー(株)を吸収合併存続会社として、(株)キーポート・ソリューションズ、(株)グルーエージェントを吸収合併消滅会社とする、吸収合併を行うことを発表しました。
- 効力発生日は、2020年10月1日を予定しております。

合併理由

新型コロナウイルス感染症拡大で一変した社会経済環境の中、国内の主要子会社3社における人的資源・知的財産・資金等の経営資源を集中し、さらなる業務運営の効率化と生産性の向上をはかるため。

当社のミッションの実現のために



2020年12月期 上半期の取り組み

1 新製品・サービスの投入

米DataStaxの分散クラウドデータベース「DataStax Enterprise」日本市場でのライセンス販売および導入運用サポート開始

2 既存製品・サービスの強化

クラウド型ワークフロー「Gluegent Flow Plus」提供開始

3 有利子負債の圧縮

借入金の返済67百万円

4 「人材」「研究開発」「イノベーションを生み出す企業カルチャー」への投資

社員のリモートワークを支援するため、新型コロナウイルス対応手当として、一律3万円を用途制限なしでグループ全社員に支給

5 株主・ステークホルダーへの還元

1株当たり5円の配当を予定

新型コロナウイルス感染症の影響と施策

事業への影響

プラス影響

業務のデジタル化の加速

マイナス影響

- 企業の新規投資意欲の減退
- プロジェクトの延期

デジタルトランスフォーメーション
関連事業の強化

具体的な施策

事業施策

- ペーパーレスファクスソリューション「Easyファクス [詳細はP8へ](#)」の販売強化
- クラウド型ワークフロー「Gluegent Flow Plus [詳細はP8へ](#)」でパソコンやスマートフォン等から決裁業務を可能とし、ハンコ出社の削減に寄与
- コンテナ・プラットフォーム事業の受注に伴う体制拡充

社内施策

2020年7月1日より、国内拠点におけるサイオスグループの全社員を対象にリモートワーク勤務を基本とする柔軟な勤務体制へ移行し、事業継続力の強化と多様なライフスタイルに合わせた働き方を推進

働き方改革&リモートワークを支援するソリューション

Easyファクス

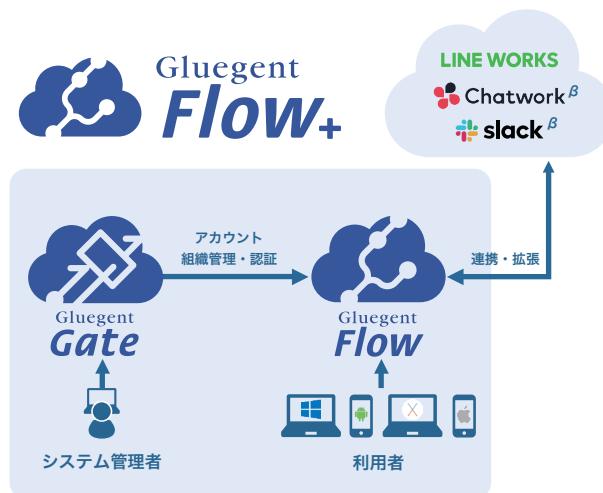


FAX文書

- 受信したFAX文書を電子化し、自動でフォルダーに振り分けし、リネーム処理して保存
- クラウド上への保存も可能

ファクス確認
出社の削減に貢献

Gluegent Flow Plus



- 申請・承認・決裁といった一連の業務をクラウド化したワークフローシステム

ハンコ出社の
削減に貢献

2020年12月期業績予想

10期連続の増収となる 売上高143億円を計画

	2020年 12月期 上半期 実績 (百万円)	2020年 12月期 業績予想	進捗率
売上高	7,276	14,300	50.9%
営業利益	54	80	68.0%
経常利益	57	100	57.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	19	40	49.5%
EBITDA	101	180	56.1%
ROIC	3.5%	2.8%	—

当期の配当予想

前期配当 (2019年12月期)

1株当たり5円の復配を実施

当期配当予想 (2020年12月期)

1株当たり5円の配当を予定

株式状況 / 株主メモ

株式の状況 (2020年6月30日現在)

発行可能株式総数	15,000,000株
発行済株式総数	8,874,400株*
株主数	3,585名

※自己株式205,812株を含む

大株主の状況 (2020年6月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
(株)大塚商会	1,593,300	18.38
パーソルテンプスタッフ(株)	1,500,000	17.30
喜多エンタープライズ(株)	920,000	10.61
日商エレクトロニクス(株)	746,300	8.61
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	226,306	2.61

所有者別株式分布状況 (2020年6月30日現在)



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国支店で行っております。 ■住所変更等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
公告の方法	電子公告とします。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場取引所	東証二部
コード番号	3744

会社概要 (2020年6月30日現在)

会社名	サイオス株式会社 (英語表記: SIOS Corporation)		
設立	1997年5月23日		
資本金	1,481百万円		
役員	代表取締役社長	喜多伸夫	
	取締役	大塚厚志	
	取締役	森田昇	
	取締役(監査等委員)	平松祐樹	
	社外取締役(監査等委員)	古畑克巳	
	社外取締役(監査等委員)	長谷川紘之	

主な子会社	サイオステクノロジー株式会社 (東京都港区)
	SIOS Technology Corp. (California, USA)
	株式会社グルージェント (東京都港区)
	株式会社キーポート・ソリューションズ (東京都港区)
	Profit Cube株式会社 (東京都品川区)

サイオス株式会社

〒106-0047

東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル

TEL:03-6401-5111 (代表)

FAX:03-6401-5112

